

N響のコンサートマスターを長く務めた「マロ」が絶大な信頼を置く仲間たちと共に登場！

## マロ(篠崎史紀)とN響の仲間たち



NHK交響楽団の特別コンサートマスターとして活躍し、同楽団の顔として、また「マロ」の愛称で親しまれてきた篠崎史紀が、N響の仲間たちと共に登場！

日本最高峰の楽団を支える名手たちの演奏で、それぞれの楽団の音色をじっくり聴き比べる前半！

そして、オーケストラのようなリッチなアンサンブルが聴ける後半と盛りだくさんの内容で御送り致します。

### 🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵 楽曲案 🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵

- ♪ シハール／喜歌劇「メリーウィドウ」より ワルツ“舞踏会の妖精たち”
- ♪ シューマン／アダージョとアレグロ op. 70
- ♪ クルークハルト／ロマンス
- ♪ シューマン／アラベスク
- ♪ バーンスタイン／ウエストサイドストーリー組曲
- ♪ ピアノ五重奏変曲ホ長調 op. 44 他

※ 一行人数5名～、1ステージ120分（休憩含）

※ 出演メンバーは変更になる場合がございます

🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵🎵

## ～篠崎 史紀 プロフィール～

北九州市出身。愛称 は“まろ”。3歳より両親の手ほどきを受けヴァイオリンを始める。

1981年、ウィーン市立音楽院に入学。

1982年、コンツェルト・ハウスでコンサート・デビューを飾る。

その後、ヨーロッパの主要なコンクールで数々の受賞を果たし、ヨーロッパを中心にソロ、室内楽と幅広く活動。

その演奏は、「信頼性のあるテクニック、遊び心もある音楽性」(ヴィーナーツァイトUNG紙)、「真珠を転がすような丸く鮮やかな音色、魅惑的な音楽性」(フォルクスシュティム紙)と各メディア紙から称賛される。完璧なテクニックとパッション溢れる美音は、他の追随を許さないと評される。

1988年、帰国後、群響、読響のコンサートマスターを経て、

1997年、N響のコンサートマスターに就任。

以来“N響の顔”として国内外で活躍。

ヨーロッパ公演では、「コンサートマスターの篠崎は言葉にならないくらい神がかった(イギリス紙)」 「兵站学と調教が芸術へと進化し、コンサートマスターの篠崎「マロ」史紀のカリスマ的な姿は、銀白の鎧をまとった戦士のようにもあり、全てを統括していた(イギリス紙の The Classical Source)」と評される。

2000年～第1コンサートマスターに就任。

2023年、4月～特別コンサートマスターとして活躍。

演奏会やオーケストラの企画も自ら行い、指揮者無しの大型室内楽「マロオケ(Meister Art Romantker Orchester)」は高く評価されている。

2024年、自身初となる絵本「おながくは まほう」(絵：村尾亘) がリトルモアより、エッセイ「音楽が人智を超える瞬間」が、ポプラ社より刊行された。

月刊誌『音楽の友』にて「MAROの軌跡」連載中。

2025年、3月、惜しまれながらもその任を退く。

メディアでも幅広く活躍しており、NHK Eテレ『学校で教えてくれないクラシック』、『クラシック音楽館』の案内人、SWITCH インタビュー達人達「篠崎史紀×菊野昌宏」に出演。

現在、NHKラジオ番組『MAROのSP日記』(年2回放送)では、巧みなトークでファンを魅了している。

活動の場は執筆まで及び、近年では『音楽の友』MAROの誌上名曲喫茶「まろ亭」を連載。九州文化大使、九州交響楽団ミュージックアドバイザー、福山リーデンローズ音楽大使。使用楽器は、1727年製ストラディバリウス(株式会社ミュージック・プラザより貸与)

- 【受賞歴】 2020年度第33回ミュージック・ペンクラブ音楽賞にて『MARO ワールド』がクラシック室内楽・合唱部門賞を受賞。  
2014年有馬賞受賞。  
2001年福岡県文化賞。  
1979年史上最年少で北九州市民文化賞。